

- スズキ、「ソリオ」「イグニス」「スイフト」・三菱OEM「デリカD:2」の補機ベルトに不具合があるとしてリコール
マイルドハイブリッド車およびハイブリッド車にて、ウォーターポンプベルトの強度が不足している為、使用過程で破断することがある。その為、ISG（モーター機能付発電機）とウォーターポンプが作動しなくなり、発電不良により充電警告灯が点灯し、冷却水温上昇により水温警告灯が点灯。また最悪の場合、エンジンが停止して再始動できなくなる恐れがある。
15年7月29日～17年3月2日に生産した11万
- スズキ、「ソリオ」「スイフト」・三菱OEM「デリカD:2」の機械式自動変速機コントローラに不具合があるとしてリコール
ハイブリッド車にて、制御プログラムが不適切な為、走行中に制御と異なるギヤに噛み合うことがある。その為、警告灯が点灯するとともにフューエルセーフが働き、クラッチを切断して、駆動力が伝わらなくなり、走行不能となる恐れがある。
15年12月1日～17年11月9日に生産した1万152
- マツダ、「CX-8」のコンビネーションメーターに不具合があるとしてリコール 17年10月9日～同年12月15日に生産した966台
コンビネーションメーターの通信用プログラムが不適切な為、通信信号が送受信できなくなり、マルチインフォメーションディスプレイに自動ブレーキなどのシステム異常が表示され、当該装置が機能しないことがある。又、カメラの画像表示に切り替える操作をした場合でも、センターディスプレイにカメラの画像が表示されない為、車両の直前および直左など、周囲の状況が確認できず保安基準に適合しない恐れがある。
- FCAジャパン、ジープ「グランドチェロキー」及びクライスラー「300」のオルタネータに不具合があるとしてリコール
11年10月22日～13年8月26日に輸入した3931台
オルタネータの設計が不適切な為、整流器の電気容量が不足しているものがある。その為、そのままの状態で使用を続けると、整流器が発熱・損傷してバッテリーに電源が供給できず、警告灯が点灯。最悪の場合、走行中にエンジンが停止し、再始動できなくなる恐れがある。
- 福祉車両開発を手がけるマツダE&T、スズキ「スペース」及びマツダ「フレアワゴン」の車いす乗降用スロープ装着車のスロープヒンジに不具合があるとしてリコール
13年10月25日～17年9月28日に生産した56
スロープヒンジ及び車体取付ブラケットの設計が不適切な為、スロープ開閉と車いす乗降を繰り返すと、ヒンジに亀裂が生じることがある。その為、そのままの状態で使用を続けると、ヒンジが破断してスロープが傾き、最悪の場合、車いす利用者及び介助者が転倒する恐れがある。
- プジョー・シトロエン・ジャポン、「DS3」等計5車種のタカタ製エアバッグのインフレーターに不具合があるとしてリコール
13年3月4日～14年6月11日に生産した2729台
運転席または助手席用エアバッグのインフレーター（膨張装置）において、ガス発生剤の吸湿防止が不適切であった場合、高い湿度の環境下で温度変化を繰り返すと、ガス発生剤が劣化することがある。その為、エアバッグ展開時にインフレーター容器が破損する恐れがある。
- UDトラックス、「クオン」のヘッドライトスイッチに不具合があるとしてリコール 17年4月28日～18年2月27日に生産した1451台
ヘッドライトの配線用端子のかしめが不適切な為、接触抵抗が増大するものがある。そのため端子部が導通不良を起こし、ヘッドライトが灯かなくなる恐れ。
- トヨタ自動車、「アルファード」「ヴェルファイア」「ノア」「ヴォクシー」「プロボックス」「サクシード」「カローラルミオン」のタカタ製エアバッグのインフレーターに不具合があるとしてリコール
13年1月7日～14年12月25日に生産した24万94
助手席用エアバッグのインフレーター（膨張装置）ガス発生剤の吸湿防止が不適切な為、温度および湿度変化の繰り返しによりガス発生剤が劣化することがある。この為、エアバッグ展開時にインフレーター容器が破損する恐れがある。
- 日産自動車、「NV350キャラバン」・いすゞOEM「コモ」のオイルホースに不具合があるとしてリコール
ディーゼルエンジンのバキュームポンプにおいて、オイルホースの耐久性が不足している為、オイルの圧力変動による変形が繰り返されて亀裂が生じるものがある。その為、エンジンオイルが漏れて警告灯が点灯し、そのままの状態で使用を続けると、最悪の場合、エンジンが潤滑不良となり、走行中にエンジンが停止する恐れがある。
12年6月16日～15年5月21日に生産したディーゼル車3万83
- BMWジャパン、3シリーズの「320」「328i」の燃料タンクに不具合があるとしてリコール 11年10月21日～13年12月20日に生産した1万4957台
燃料タンクの製造が不適切な為、タンク上部に取り付けられたカバープレートが正しく溶接されていないものがある。その為、走行振動などにより溶接部に亀裂が生じ、そのままの状態で使用を続けると、亀裂部位から燃料が漏れる恐れがある。